

2018年8月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度をみると、東アジア北東部～北太平洋北部で波列パターンが見られた。中国北東部、アラスカの南海上、カナダ東部、ロシア西部、ラプテフ海周辺で正偏差、カナダ北部、千島近海とその周辺、地中海で負偏差となった。200 hPa 風速をみると、北米～ヨーロッパで偏西風は平年と比べて北寄りを流れた。亜熱帯ジェット気流はユーラシア大陸上で平年より強く、東アジア東部で平年と比べて北寄りを流れた。海面気圧をみると、太平洋高気圧は日本の南東海上で平年よりも強かった。アラスカの南海上、北大西洋北部、ロシア西部、中国北東部、東シベリア周辺で正偏差、カナダ北部で負偏差だった。850 hPa 気温をみると、北米北東部、ヨーロッパ南西部、ヨーロッパ東部～ロシア西部、ラプテフ海周辺で高温偏差、カナダ北部、千島近海とその周辺で低温偏差だった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、フィリピン付近～北太平洋の北緯10～20度帯で活発、インド洋～インドネシア西部、北太平洋西部の北緯30度付近、北大西洋西部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の上旬頃は太平洋付近に位置し、その後不明瞭となった。対流圏上層では、東アジア北東部で高気圧性循環偏差となり、チベット高気圧の北東への張り出しが強くなり、日本付近を広く覆った。また、北大西洋熱帯域の西部で低気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、南シナ海北部～フィリピンの東海上で

低気圧性循環偏差となり、東南アジアのモンスーントラフは平年より深かった。北大西洋熱帯域の西部では高気圧性循環偏差となった。海面気圧は、ベンガル湾～北太平洋熱帯域の中部で負偏差、大西洋を中心に広く正偏差となった。南方振動指数は-0.3だった。

世界の天候

2018年8月の世界の月平均気温偏差は+0.27°C（速報値）で、1891年の統計開始以降、6番目に高い値となった。8月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.68°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

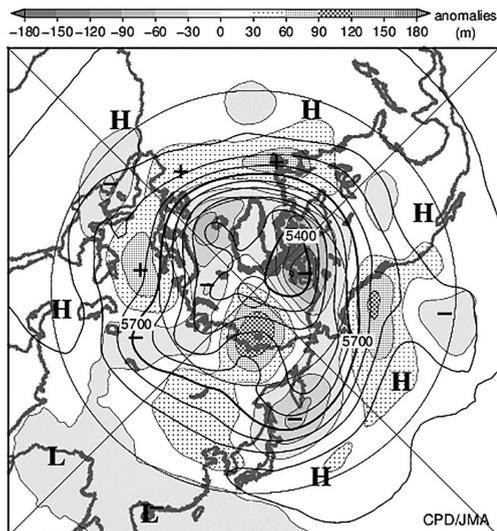
- 九州北部地方～中国北西部、ロシア西部～ヨーロッパ南西部、米国北東部及びその周辺、米国南西部～メキシコ中部で異常高温となった。
- モンゴル～中国北部、東南アジア北部及びその周辺、ヨーロッパ南部～アルジェリア南東部、米国北東部～南部で異常多雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

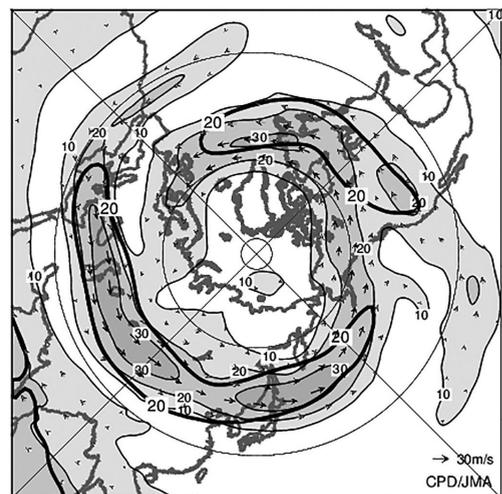
「気候系監視速報」をご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



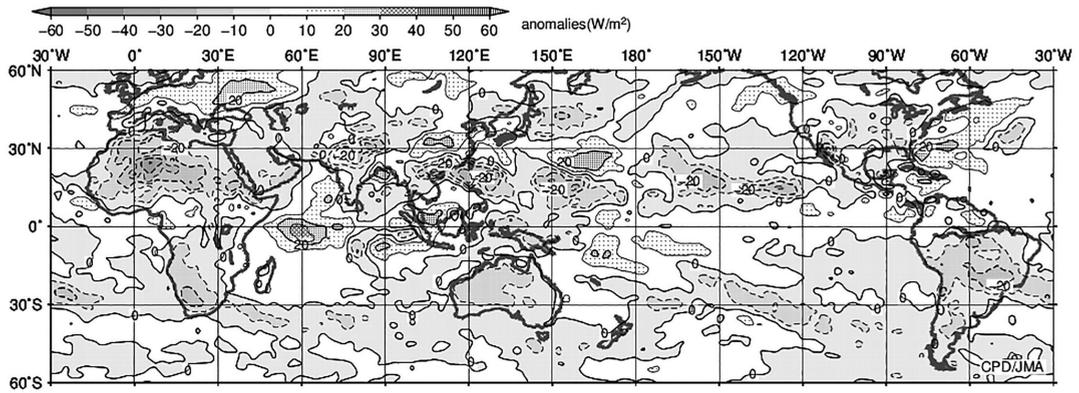
2018年8月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。



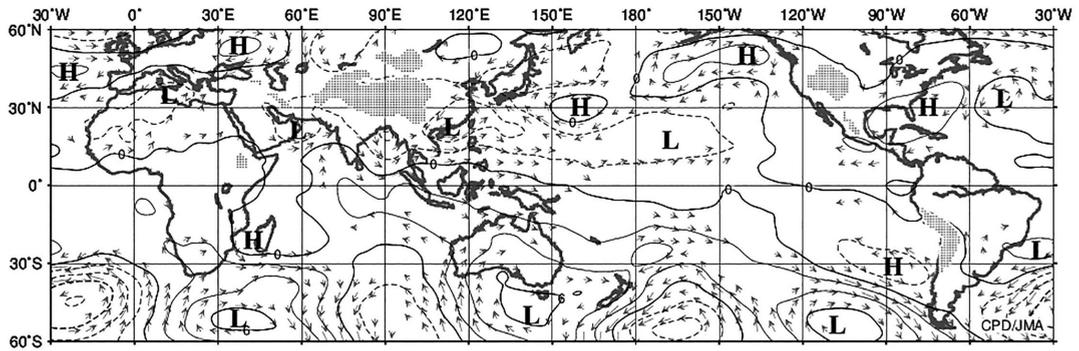
2018年8月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル

等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。

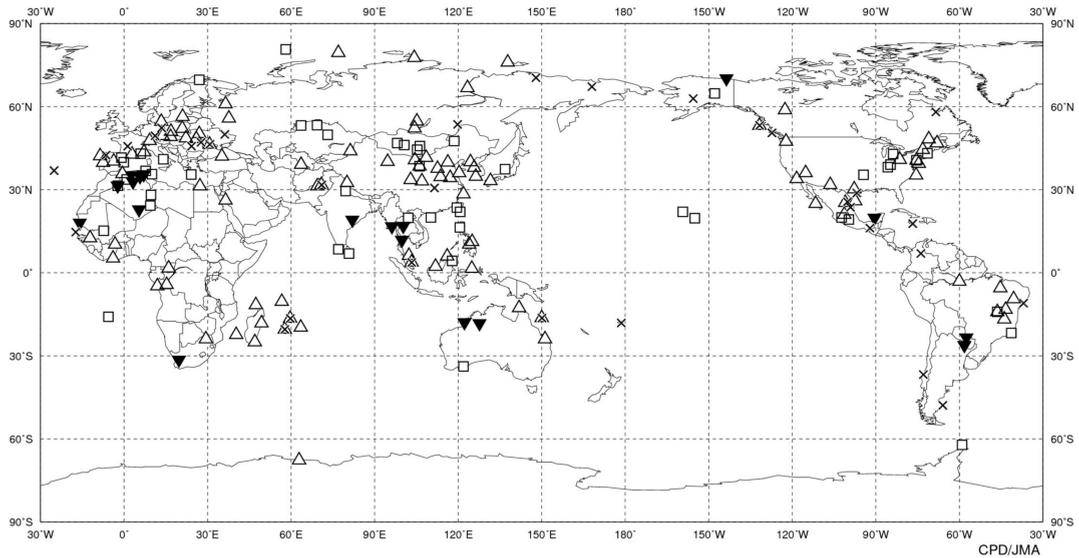


2018年8月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2018年8月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2018年8月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。